

# オープン市場短信 (2004年7月)

2004.7.5

## 6月のCP市場動向

6月のCP新規発行額は、3兆6千億円程度(ABCP・銀行CP除く)と2ヶ月連続で期落ち(約2兆9千億円)を大きく上回った。前月同様、夏季ボーナス支給などの季節的な資金需要やノンバンクリースの積極的な資金調達が増加要因であろう。

発行レートは、前月に比べわずかながら上昇した。景気回復期待に伴う長期金利の上昇が金利体系全体へも波及し、これまで好需給に支えられて、ほとんど波が立つことが無かったCPレートにもようやく動きが見られた。レートの「官民逆転」状態は続いているが、JRや自動車系ノンバンクの発行レートのような極端に低い引受レートは、今後少なくなるのではないかと見られる。

発行期間については、引き続き短いものが中心で期越え物の発行額は前年同月を下回ったが、月末には電力会社2社が6ヶ月物(160億円、0.015%近辺)を発行し、大手電機メーカーが1年物の発行(20億円、0.07%)を行なっている。

### 銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】 0.003~0.01%台近辺。

【オペ適格銘柄(a-1)】 0.007~0.01%台後半。

【オペ非適格銘柄(a-1)】 0.01%~0.03%台。

【ノンバンク・リース会社】 a-1+銘柄は 0.003%~0.01%台後半。a-1 銘柄 0.01%台前半~0.03%台後半。

【a-2 格銘柄】 0.01%前半での出会いから 0.20%割れでの発行が確認されている。

### CP オペ

ABCP買切りオペは、4日と21日の2回オファーされた。いずれもオファー金額は1,000億円で、21日のオファーに対しては1,732億円と過去最高の応札となった。

償還期日まで短いオペ対応玉をディーラーが多く保有していたことや、6月上旬に発行されたオペ対応玉の売切りニーズが強かったと思われる。

CP現先オペは、6月も期日のロール分が4回実行された。5月末の大量発行から月中の順調な発行を受けて、ディーラーのポジションが重くなっていたため、各回とも応札ニーズが強く、落札レートは前月より高めとなった(足切レート0.003~0.004%)。

6月末のABCP買切りオペ残高は1,306億円、CP現先オペ残高は2兆7,407億円(内ABCP6,527億円/短期社債3,775億円)。

### ABCP

6月末の発行残高は、約5兆9,200円と前月末残から若干減少した。前月同様、裏付けとなる貸付債権やリース債権といった資産の流動化ニーズが、引き続き後退していることが減少要因であろう。

### 現先市場

月中現先レートは、月間を通じて0.003~0.008%のレンジでの出会い。

## 7月のCP市場動向

7月中のCP償還は、前年同月比約3,500億円増の約3兆4千億円(銀行・ABCPを除く)。CP発行レートは、期内物ではFBレートをやや下回る程度、期越え物ではやや上回る水準での出会いとなるだろう。金利上昇懸念から、長めのCPによる資金調達が増えるのではないかとの見方もあるが、足元金利に変化はないうえ、年内に量的緩和が解除される可能性は低いこと、9月中間期末には有利子負債を圧縮したいことなどを勘案すると、ノンバンクリースを除いて発行企業が早めに資金調達に動くことは考えにくい。長めのCP発行が本格化するの、年明け以降と思われる。

### CP オペ

ABCP買切りオペは、今月も1回あたりのオファーは1,000億円で複数回の実施が予想される。ディーラーの玉保有も厚めとなっているため、各回とも積極的な対応が見込まれる。

現先オペは、今月も4回の期日でのロールが予想されるが、前月同様ディーラーの保有量も多いため、足切レートは低下しづらいだろう。

### 現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.004~0.008%の出会い、ターム物で0.005~0.01%近辺での出会いとなろう。

## 短期社債について

短期社債(電子CP)の6月末発行残高は、23社で1兆7,871.9億円となった(前月比約3,890億円増)。内訳は、ノンバンク・リース(10社)8,591億円、銀行・証券(5社)5,263億円、事業法人(4社)3,280億円、ABCP(4社)737.9億円となっている。三菱商事・東京三菱・オリックス3社とABCPの発行増が目立っていた。

6月末の登録企業数は、あおぞら銀行・昭和シェル石油・ジャックス・芙蓉総合リース・トヨタ自動車・中国電力が加わり52社、既発行企業数は29社となった。

6月の動きとしては、中国電力が電力会社の中で初めて発行に踏み切り(60億円)、ABCPでアストロ・キャピタル1が初発行を行なっている(139億円)。ABCPの電子CP化はこれで4社となったが、いずれもみずほCBがスポンサーとなっている銘柄である。同行以外のSPCの登録はまだ行なわれてはいないが、今後徐々に増加すると見込まれる。

(松倉)